

第 86 回宇宙理学委員会 議事録

日時： 2024 年 6 月 7 日（金） 9:30～12:30

場所： オンライン開催（ZOOM）

出席者：

委員： 関（委員長）、篠原（副委員長）、阿部、河原、福家、松本（以上幹事）、生駒、和泉、井上、今田、榎戸、大竹、笠羽、関根、関本、田代、田中、寺田、鳥海、中川、松浦、山口、山崎、横山、米徳、渡辺（伸）、渡辺（誠）、鈴木

説明者： 白井（キュレーション専門委員会幹事）

宇宙研： 國中所長、新田理事補佐、佐藤 PD、吉田研究総主幹、大井田研究基盤・技術統括

オブザーバ： 山崎（典）宇宙物理学研究系研究主幹、丸将来 FW 検討委員会委員長、

今村太陽系 GDI

事務局他： 吉原計画マネージャ、東尾主任、柁原主任、石崎、上野 PO 室長、奈良岡主任、東方主査、早川、根本

配布資料：

資料 0	第 86 回_宇宙理学委員会議事次第 a
資料 2-1	第 85 回宇宙理学委員会議事録
資料 2-2	理学 AI 表
資料 3	2024 年度宇宙理学委員会・戦略的開発研究経費評価結果報告
資料 4-1	2024 年度搭載機器基礎開発研究費申請書 審査報告書
資料 4-2	2024 年度搭載機器基礎開発研究費申請書 審査結果一覧
資料 6	2024 年度 戦略的開発研究費（理学）提案の募集（第 2 回）
資料 7	第 23, 24 回キュレーション専門委員会報告
資料 8	今後の理学委員会 WG の進め方について
資料 9-1	宇宙理学メンバ登録について
資料 9-2	宇宙理学メンバ退会について

1. 所長挨拶

ヨーロッパに出張中。各ミッションにおける協力についてヨーロッパ各機関と対話を行っている

2. 前回議事録および A/I 確認（審議） 《資料 2-1、2-2》

前回議事録はメール回覧済み。委員会においてコメントは無く承認された

3. 2024 年度宇宙理学委員会・戦略的開発研究経費評価結果（報告） ≪資料 3≫

寺田委員から報告がなされた

- ・ 通常 WG では FACTORS のみ申請有り。1 次、2 次に分けて要求通り認める
- ・ 時限 WG については絞り込み時期までの必要最小限の申請を認める。GREX-PLUS は報告資料作成後に見積もりが取得され確認が行われたので配算手続きに入っている。小天体 SR については 7 月以降の活動を含めて申請だったため、本委員会での議論を経た後に再度評価委員会で議論したい

4. 2024 年度搭載機器基礎開発研究費申請書 審査結果（報告） ≪資料 4≫

阿部幹事から報告がなされた

- ・ 17 件（昨年より 3 件増）の応募あり。うち 11 件を採択
- ・ 申請を 6 つの観点から審査

<コメント>

- ・ （渡邊）S 評価を与えることについては、公募要領に明記する、あるいは審査結果を公開する場合はそこに記載するなどの配慮をするのが良い

5. WG 設置審査現状報告(UZUME)（報告） ≪資料なし≫

横山委員長から報告がなされた

- ・ UZUME から再設置申請があり、審査。
- ・ 現在、報告書準備中。本日は中間報告。申請を認める方針である。

関委員長から、設置が認められる方向で審査が進んでいることから戦略的経費提案募集案内を WG 設置が承認された場合のみ応募できることを付記して UZUME WG にも送りたいとの提案があり、了承が得られた

<コメント>

- ・ （渡邊）月科学、国際宇宙探査の中での UZUME の位置づけを整理していただきたい（A/I: 太陽系 GDI）
- ・ 設置審査報告書の中にも、太陽系 GDI のサポートを得て上記の整理を進めるよう文言を入れてもらうと良い

6. FY2024 理学戦略的開発研究費提案募集(第 2 回)について（審議） ≪資料 6≫

寺田副委員長から説明がなされた

- ・ 今年度から年 2 回の公募を行うことになった
- ・ 提案募集の文面の変更点について説明がなされた

<質疑>

- ・ （渡邊）10 月初め配算が可能なようにスケジュールを短縮する事が望ましい
⇒UZUME WG への連絡も前倒しが可能な事から、幹事団、審査委員会で調整し早期配算ができるよう調整を行う（A/I: 審査委員会、理学幹事団）

7. 第 23、24 回キュレーション専門委員会報告（報告） 《資料 7》

臼井専門委員会幹事から説明がなされた。

- ・ 第 24 回委員会の報告(OREx 試料受け入れ後のサイエンス活動、ASAC 立ち上げについて、リュウグウリファレンス計画について)

<コメント>

- ・ (渡邊) リュウグウリファレンス計画を進めるにあたっては地球外物質研究グループの関与も大事である
- ・ (山口) 持ち帰ったサンプルが太陽系始原物質の典型であることの根拠は？
⇒ 太陽の組成、CI 隕石の組成は似ている。はやブサのサンプルは CI 隕石組成と似ており、この 2 段階ステップから始原物質を表すと考えられている
- ・ (田中) OREx サンプル分析のスピード感は？
⇒ 来年夏頃までに成果を出したい

8. 理学委員会 WG の取扱いについて 《資料 8》

篠原副委員長から幹事団案の説明がなされた。

- ・ 戦略的中型は絞り込みが 2027 年度。時限 WG の存続については、GDI および理学委員会・工学委員会で議論し決定することになっている
- ・ 公募型小型については、今後のフレームワークの見直しを踏まえて、適切なミッション立上げ方法や時期・公募の有無の検討がなされる
- ・ 2026 年度に HiZ-GUNDAM・SILVIA・LAPYUTA の 3 ミッションのダウンセレクションが実施されるが、選定されなかったミッションの扱い等について理工学合同委員会で議論し決定する

<質疑>

- ・ (中川) 7 月までの時限 WG 活動とその後の WG 立上げの関係は
⇒ それまでの成果を再立上げの WG にどのように活かすかについては GDI での議論に期待している
- ・ (渡邊) 工学委員会では小天体サンプルリターンは WG として年度内活動を継続することが決定しており、戦略的経費も既に配算されたと聞いている。両方にまたがる WG としてちぐはぐに思える
⇒ 工学委員会側活動との整合性に十分配慮する必要がある
- ・ (笠羽) 予算の効率的執行は配算の仕方、2026 年度末までにどこまで進めるかにもよる。宇宙研としての考え方は？
⇒ 今年度以降は戦略的経費内で進めてもらいたい。小天体 SR については年度いっぱいの活動を前提にした申請をしてもらい、臨機応変な対応として審査を行ってもらうのが良い
- ・ (井上) 戦略的経費申請の公募案内では提案書提出までの活動に資する内容との制約があって、太陽系 GDI の小天体 SR が 7 月以降の活動も含めた申請書になっているとすれ

ば、宇宙物理 GDI との間で不公平感が感じられる

⇒不公平感はその通りなので、10 月までの活動について希望があるのであれば臨機応変に対応するのが良い

- ・ (山口) 太陽系 GDI へ質問だが絞り込みが3年間延期された場合でも小天体 SR が唯一の候補か？

⇒ (笠羽) 現時点ではそう考えている。但し、ブラッシュアップはする。

- ・ (中川) いずれにせよ、時限 WG としての活動成果のしっかりした総括と今後3年間の計画設定を行うことが重要である

- ・ (渡辺) 通常 WG とはどの WG の定義に当てはめようとしているのか、良くわからない

⇒曖昧であれば、戦略的中型を出口とする GDI が所掌する WG、と考えてもらうのが良い。資料も修正する (A/I: 理学幹事団)

- ・ (山口) 宇宙物理 GDI としては3年間で周辺状況を見て、活動を評価して、あるべき一つを抽出したいという考えである

- ・ (寺田) WG の今後3年間の活動計画はいつ立案することを理学委員会は求めるのか？

⇒ (山口) 宇宙物理 GDI としては6, 7月に総括して、年度後半くらいにはなると予想している

- ・ (山口) 絞り込みについて、探査対観測という構図が継続するのは好ましくないので、各々計画性をもち協力して進めていくのが望ましい

- ・ (鳥海) 先日の臨時理工学委員会での提示内容は太陽科学コミュニティで検討中の黄道面離脱ミッションのような更に先の中型計画にも関係する。戦略的中型、公募型小型に関する現在の状況はコミュニティに必ずしも伝わっていない。コミュニティに周知し、広く議論できるようにしてもらうことは可能か？

⇒WG への説明は必要と思っていたが対象を更に広げて行うのが良さそう。詳細は佐藤 PD と相談したい。宇科連のオーガナイズドセッションでは説明が行われる予定。その他に要望があれば、応えていきたい。(A/I: 吉田研究総主幹)

- ・ (渡辺) 公募型小型 WG の進め方に関する情報が少ないが

⇒現在はグレー。見直しの影響がない限り、現行のまま。

- ・ (渡辺) ECO 公募に向けた活動のプロモーションを理学委員会がすべきでは

⇒フレームワークの見直し議論が急ピッチで進んでいるので、それを受けて進めるのはどうか。また、次が ECO 公募に決まったわけでも無い。軒並みコストが上がっている中で、コストが安いミッションの提案は有難い。そのような提案を進めるのは戦略的に有効なので理学委員会が勧めてくれるなら有難い

- ・ (山口) フレームワークの見直しが現在の小型 WG の活動に大きな影響を与える可能性もあるので、結果が effective になる時期は方向性が見えてきた時点で早めに伝えておくのが良い

- ・ (佐藤 PD) 今後ダウンセクションを行う公募型小型3ミッションについて、3年間の活動計画をヒアリング中である

- ・ (関委員長) 議論のまとめとして、1) 戦略的中型WG取り扱いについて、来年度以降もGDIの支持が確定しているWGについては、今年度も継続性に配慮した臨機応変な取り扱いが必要、2) 宇宙工学委員会にまたがるWGについてはそちらと意見交換を行い、いったん総括を行い、3年後の絞り込みに向けた検討計画をまとめてもらうことにする
- ・ (寺田) 時限WGの活動については年度内フレキシブルに対応するのが良いだろう。但し、計画設定を見ないでというのは良くないので、戦略的開発研究費の審査委員会ヒアリングでしっかり確認して審査を進めることとしたい

9. 宇宙理学メンバ申請(審議)、退会(報告)について 《資料9-1、9-2》

- ・ 事務局から新規登録7名が説明され、承認された。
- ・ 事務局から退会1名が報告された。

<質問&コメント>

- ・ (山口) 海外のメンバも理学委員の被推薦者になり得るのか?
⇒被推薦者になることを除外してはいない(事務局)
⇒情報管理の観点から海外メンバを入れることに問題はないのか、精査してほしい
(A/I: 理学幹事団、事務局)
- ・ (笠羽) 理学メンバ名簿を有効に活用してほしい

10. その他

- ・ A/I 確認